

以別紙得御意候、然^者今昼景山源左衛門
 於御館銘々^江被申談候^者大谷九右衛門上納
 之儀去冬已來之事^ニ有之候処、今以埒明
 不申度々銘々迄催促申候得共差別候付
 不申段甚不相濟事^ニ有之候、本人九右衛門
 弥不埒候ハ、かゝる時分之為^ニ候間請人共^江
 急度被仰付御取立も可成儀^与奉存候
 若又請人共手^ニ茂余り候ハ、九右衛門家蔵
^ニも御手を被懸、勿論持船等も御取上
 彼や是を取合させ候^而も上納相濟し不申候
^而者外々^江押移り御役所御作法相立
 不申候間、此段各方迄申談し何分急々
 筋付候様取計可申旨内談之事^ニ候、尤
 九右衛門持船此節雲州三保ノ関^江戻り居申
 候処、同所出張役人より内々申通し候^者右船
 雲州灘近く乗入候^与哉讒^ニも相聞^江候へハ
 若々九右衛門より相對^ニ而船外々^江取放し候様之
 儀共有之候^而ハ弥以御手筈相違致し候間
 決^而可有之事^ニハ無之候得共、此節米子表
 御当家様御役人より無油断心を附可然と
 申候、惣^而此儀^ニ付去冬已來度々銘々迄
 催促申節其度毎^ニ上納之儀^者被仰渡事^ニ
 可有御座候得とも九右衛門甚□乱し居申様早々
 相聞候得^者御懸ケ声而已^ニ而ハ下ノ氣ゆるミ中々
 以急^ニ上納相濟し候様之事^ニ而ハ不被存候、然ル
 上ハ最早九右衛門身上^ニ御手を被懸御取立被成
 候様^ニ無御座^而ハ差別付ケ申間敷^ニ存候付
 此旨及御談^ニ候由被申候右^ニ付銘々より申候^者委細
 致承知候、九右衛門上納及延引候儀苦々敷事^ニ
 有之候、其旨早速米子表へ申遣し急度申渡し
 候様^ニ可致候、扨又根元右御米積船之儀九右衛門より
 発願之節具成候儀銘々不存候本人九右衛門より
 其御役所へ御直^ニ相願拝借米等之事も
 御極メ被遣候由、依之右九右衛門儀慥成ルもの^ニ有之
 候哉之銘々手前へ御文通^ニ付成程於米子ハ

家柄久敷随分慥成ルものニ有之段ハ及御答
候得とも拝借次第等之儀ハ祥ニ承り不申候、去
冬已来及延引候由ニ而毎度御催促之預
御文通候節も其度々ニ早速其段申付候儀ニ
有之候、何分此度被仰聞候趣を以猶又稠
敷申付、其上ニも不埒ニ候ハ、請人共江申渡させ
右船之取集メ并九右衛門家藏等之取調等も
申附候様ニ米子表へ懸ケ渡り可申候、其上ニ而様子
相知れ候ハ、早速御左右可申ニ付先ツハ左様ニ
承知被呉候様ニ申置候間、各御申談之上九右衛門へ
申渡し之儀御考慮可被成候、将又今朝之飛脚
帰便ニ九右衛門願之品致し替相願候ハ、模様ニ
より又申談候方も可有之哉と相認メ申候へ共
其後景山より右之談し候ニ而相考候へハ中々
以此節如何様之願ニ而も景山手江懸合之可
相成時節ニ而ハ無之候間いつれ之道ニも先ツ
上納之一段を差別付候ニ而其上之願ニ而無之
而ハ決ニ而取あへ不申様子勿論此御方
御役人より之口出しハ相成り不申次第ニ有之候、何
とも気毒成ルものニ存候へ共右之趣ニ候間、今朝之
書状之意本人江申渡し候儀者先々御見合
被成何分上納一段たとへ皆々行届キ不申
とも成りたけ差出し不申ニ而ハ此表之様子
甚六ヶ敷相聞へ申候此上相延□候ニ而御月番
杯より表向被仰遣候様ニ有之候ニ而者甚以
御心配之儀ニ御座候間、此所幾重も御考慮
御取計可被成候、右之趣先ツ内分ニ而如斯
御座候、以上

七月十一日